

勘十郎堀の今昔

茨城町&鉾田市

農業県・茨城で日本一の生産量を誇る作物のひとつはメロンです。青い肉質のアンデスメロン、赤い肉質のクインシーメロンともに夏の時期に多くの人に食されています。
 県内で一大産地となっているのが鉾田市と東茨城郡茨城町です。おいしいメロン栽培には水はけの良い火山灰土の砂地と海岸沿いの昼夜の寒暖の差が大きい気候が適しているのです。
 今ではその土質は多くの恵みをもたらしていますが、江戸時代、その砂質のために大きな事業が妨げられました。
 水戸藩が宝永年間（一七〇四〜一七二一）に藩政改革の一環として行った、涸沼の海老沢河岸と紅葉村（現鉾田市）の巴川を結ぶ、全長10キロに及ぶ運河計画です。
 水運が主要な物流手段だった当時、危険な海よりも内陸の運河を通じて、東北方面からの物資を江戸へ運ぶための運河を掘削して、その通行税により水戸藩の財政難を救うというものです。



当時としては壮大ともいえる運河計画を立案したのは松波勘十郎という藩政改革の請負人でした。

松波は三河の旗本領、大和郡山藩、備後三次藩、陸奥棚倉藩など全国をまたにかけて藩政改革を手掛け、その基本政策は流通経済による収入増大を図るのが主だったようです。

宝永四年（一七〇七）に始まったこの運河工事には多くの農民が駆り出され、砂地による難工事が強いられました。さらに、人足代の不払いなどにより、農民一揆に発展。ついに未完の運河となりました。

この運河は現在、「勘十郎堀跡」として一部が現存しています。松波は志半ばで処刑されていますが、その名前は今に残すことになりました。

松波勘十郎や農民が泣いた砂質の土壌は時代を経て、現在の恵みを子孫へ還元したようです。

※注①：平成21年農林水産統計より
 ※参考文獻①：茨城県大百科事典ほか



【問合せ先】茨城町生涯学習課（茨城町観光協会） TEL.029-240-7122
 【所在地】勘十郎堀跡（茨城町城之内先）
 【アクセス】東関東自動車道茨城空港北ICから県道18号経由、県道181号で10分ほど。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>